

はじめに

問題です。

「東京の渋谷や新宿などの大都市にも普通に存在している、背の高さがキリンやゾウよりも大きくなる生き物、なんでしょう?」

この本のタイトルなどから容易に察せられるかと思いますが、答えは「木(高木になる木本植物)」です。おおざっぱな括りではありますが、イチヨウやケヤキなど、街路樹として当たり前植えられる木は当たり前のように10mを超えるような大きさに育ちます。

| ツツジ類など、10mまでは育たない低木も多くいます。

毎朝何百人ものサラリーマンが行き交うすぐ横で、そんな巨大生物たちが立ち並んでいて、それが誰も気に留めない当たり前の景色となっているのです。よくよく考えたら、結構不思議な光景だと思いませんか?

この本では、そんな木の「生き物としての生き方」について紹介していきます。「木も生き物である」ということは、いわれてみればその通りなのですが、なかなか実感が湧きづらいものではないでしょうか。実際に観察会や本な

どでも、木そのものよりも「この木はこういうことに利用される」「この木はこんな生き物の役に立っている」などの紹介をされることは少なくないと思います。

| もちろん、そういうトピックを否定しているわけではありません。

何せ人間と木は全くといっていいほど違う生き物で、体のつくりも生きるための仕組みも、共通点を見つける方が難しいほどです。また、あまりに風景に馴染みすぎて、木が活着ていること自体わざわざ意識することもないかもしれません。

しかし木をじっくり観察すると、一律に並んで植えられた木でもそれぞれ違った枝ぶりをしているのがわかりますし、日々様子が変わっていることがよくわかります。観察を続けていくうちに、「この木はこういう環境が好きなのか」「こういう枝の伸ばし方をするのか」と、木の生き方が見えるようになってきます。

また、街中でみられる木にもたくさんの種類があり、人の背丈を超えない低木になるものもいれば10mを超える高木になるものもいて、大きな花を咲かせるものもいれば目立たない花でそっと花粉を運ぶものもあります。それぞれの生き方は、種類や環境ごとに様々です。

そうした木の生き方に目が向くようになると、今まで当たり前に見てきた景色の見え方も少し変わってくるのではないかと思います。この本をきっかけに、あなたが身近に生きる木に少しでも目を向けて観察してくれたら、とても嬉しいです。

一応先にお伝えしておく、この本では「普通の人には考えもしないだろうが、木はこういう生き物だ！心して観察しろ！」とか、「木も生きているのだからもっと大切にしろ！剪定や伐採なんでもってのほかだ！」とか、そうしたことをいいたいわけではありません。

本文でもお話ししていますが、この巨大生物を街中で維持するために剪定や伐採はある程度必要なものだと思います。

ただ「木」という身近に当たり前に存在する生き物のことをもっとよく知れたら、きっと日々が少しだけ楽しくなるのではないかなと思っているのです。多くの人が通勤や通学で毎日のように歩く道には、大概何かしらの木が植えてある、もしくは生えていると思います。

そうした木を見て「おっ、昨日より新芽が開いてきてるぞ!」「この木はもしかしたら最近調子が良いのかもしれない

いな」みたいなことを思えるようになったら、ちょっと日常に彩りができると思いませんか？

そうした視点や感覚は、無くても大して損はしませんし、あっても大した役には立たないことが多いと思います。しかしあると無いでいったら、きっとあった方が良いでしょう。この本が、あなたの日常を彩ることに少しでも役に立てば良いなと思っています。

この本では、あまりマニアックなことは扱っていません。木についてある程度詳しい人からすれば当たり前のことだったり、補足説明を入れなくなったり、ちょっと物足りなかったりすることもあるだろうと思います。

そうしたつくりにしたのは、単に僕の専門性の低さもあるのですが、木に詳しい人なら当たり前知っているけど、そうでない人には面白がってもらえることって結構あるのではないかと思ったためです。

僕は樹木医という資格を少し前に取ったのですが、その勉強のために「樹木医の手引き」という事典のような分厚い本を何度も何度も繰り返し読みました。教科書的な本なので文章は堅い言葉で淡々と書いてあり、お世辞にも読み

やすい本とはいえなかったのですが、内容は知らないことだらけで、「木の基本的なことでもこんなに面白いのか!」と、楽しく勉強を進められた覚えがあります。

また、そうした知識をもとに木を観察すると、今まで当たり前に見ていた木の見え方が全く変わってきたのも新鮮で感動しました。木にある程度詳しい方なら当たり前のように知っているようなことでも、初めて知るととっても面白いものです。

この本はそうした僕の体験をベースにして、読んだ人の木を見る目が変わってくれたら良いなと思って書きました。木の生き物としての特徴がわかれば、あなたの生活に風景として存在していた木が、何やらすごい存在に思えてくるかもしれません。今まで特に意識していなかった身近なものの面白さに気づくと、きっと街を歩くだけで楽しくなってくるはずです。

前置きが長くなってしまいましたが、木という生き物がどんな生き方をしているのか、ぜひあなたの身近に存在する木を想像しながら読んでみてください。